



チョウセンゴミシは、北海道に広く分布するうる性の樹木です。果実に薬理作用があり、五味子という名の生薬として、咳どめ、下痢どめ、滋養強壮薬などに用いられています。年間30トンほどの需要がありますが、中国や朝鮮半島からの輸入品でまかなわれており、道産チョウセンゴミシの利用開発が期待されています。

林業試験場では平成元年度から道立衛生研究所と共同で、果実の収量を決める要因や、薬効成分の含有量について調べています。チョウセンゴミシの結実には別の個体の花粉で受粉することが重要で、そのためには、開花期に農薬を使わないなど、昆虫による受粉を妨げないようにすることが必要です。また、ふやし方は実生やさし木が容易であること、薬効成分の含有量には、個体差があることなどが明らかになりました。そのため、今後は優良個体の選抜基準や選抜方法についても研究を進める予定です。



チョウセンゴミシの花；これまで雌雄異株とされてきたが、1株に雄花と雌花の両方が着いているものがしばしば見られます。



チョウセンゴミシの果実；果実には甘、辛、酸、塩の5つの味があり、果実酒としても利用されます。